

「入間航空祭」見学を実施

11月3日(日)、「入間航空祭」が航空自衛隊入間基地(埼玉県狭山市稲荷山)で開催され、コロナ禍や能登半島地震などで5年ぶりとなった一般公開には、自衛隊関係者のほか、航空ファンや家族連れなど約25万人が詰めかけました。自衛隊神奈川地方協力本部(本部長 大谷三穂1等海佐)も、神奈川県内各地の募集案内所から募集対象者ら62名を引率し、航空祭見学を行いました。

今回の飛行展示プログラムは、カモノハシのような外観が特徴的な電子支援訓練機「E-Creeper」が初登場してスタートしました。メインとなる「ブルーインパルス」の飛行展示では、次々と飛び立った6機が一糸乱れぬアクロバット飛行を披露して観客を沸かせました。秋晴れの青空の下、白煙で大空にハートを描く「パーティカル キューピッド」や星形を描く「スタークロス」など様々な演目がアウンズで紹介されると観客は空を見上げ歓声を上げ、カメラやスマホで写真を撮っていました。

参加者からは「最高の天気の中で迫力ある飛行が見られ、来てよかったです」「操縦技術の高さに驚きました」などの感嘆の声が聞かれ、中には「飛行機にも憧れますが、やはり自分は陸自を志望します」と話す入隊希望の学生の姿も見られました。

神奈川地方協力本部は、自衛隊への理解促進と防衛基盤の拡充に向け、これからも広報活動に積極的に取り組んでいきます。



海上自衛隊厚木航空基地にて哨戒機『P-1』体験搭乗

自衛隊神奈川地方協力本部溝の口募集案内所(所長 渡邊裕太1等陸尉)は、11月4日(月)、海上自衛隊厚木航空基地に所在する第4航空群が企画した哨戒機「P-1」の体験搭乗に参加者を引率しました。

当日は朝から雲一つ無い秋晴れで、風も穏やかな絶好のフライト日となり、参加者は搭乗前のブリーフィングで機体の説明や搭乗に関する安全教育を受けた後、「P-1」に乗り込み、機長や乗員から機内の装置や上空から見える景色について説明を受けつつ、茨城県、栃木県及び朝霞訓練場の上空を巡る約2時間の飛行を体験しました。

搭乗を終えると、参加者は驚きと感動を隠せない様子で「大変貴重な体験ができた」「機体は思ったより揺れなかったし静かだった」「あっといふ間のフライトだった」等の感想を述べていました。中には今年度の入隊予定者や来年度以降の受験予定者もいて、自衛隊入隊に向けての更なる意欲向上をうかがうことができました。

神奈川地方協力本部は、今後も部隊等と連携しながら積極的に募集・広報活動を実施し、自衛隊の活動に関する理解と関心を高めていけるよう活動に取り組んでいきます。

